



日本・世界農業遺産を 目指す地域振興策は

村尾明利 議員

町長 地域資源を生かした本町ならでの
産業振興を図っていく



問 世界農業遺産は、次世代に継承すべき伝統的農業・農法を核として、生物多様性、文化、優れた景観等が一体となつて保全、活用されている世界的に重要な

答 日本農業遺産、世界農業遺産を目指す上での地域活性化と観光振興、農業振興策は、このネーミングをどのように生かすか、充分な体制が構築されているのか、農産品の生産規模、質量共に近年大幅に減少傾向にある、こうした事を機に再構築する考えはないか。

農業システムを、国連食糧農業機関が認定する制度だ。
日本農業遺産は、国内において将来受け継がれるべき伝統的な農林水産業システムを広く発掘し、その価値を評価するため、国が今年4月に創設したものである。

本町のたたら製鉄に由来する持続可能な農業システムを次世代へ継承することは、地域の活性化に役立つものと判断している。

仁多米、奥出雲ソバ、奥出雲和牛等の品質向上とブランド力の強化、地域ぐるみの6次産業化の

推進など農業振興の発展に非常に価値あるものと考えている。

地域資源を生かした観光振興に取り組み考えである。観光文化協会と町の連携強化で官民一体となつて情報発信、観光案内サービスの提供に努める。

認定を契機とした農産物の安定生産、流通、販売の一体的活動に積極的に取り組む。

問 町道等の恒常的な巡回による危険樹木の伐採（除切り等）はできないか、道路沿線の松枯れ対策も少しずつ対応がなされているが充分でない。こうした事も一体として対策を行うべきではないか。

答 嘱託2名、臨時職員4名による直営体制で支障箇所の作業を行っており、人的配置や費用の面で困難。現状維持を図っていく。

問 耕作放棄地の拡張防止対策について、近年、目に付くのが山際に隣接した田畑の放棄地がある。

耕地の周辺には大径木が立ち日陰を誘い農作物が十分に育たない環境だ。隣接山林の所有者は様々であるが、周辺木の伐採を行い優良農地の復活の検討を。

答 遊休農地の発生防止は、人・農地プランをはじめとする地域での話し合いの場づくりが重要でこれを進めたい。

問 平成28年度の米値について、第三セクター「奥出雲仁多米」の米出荷の代金精算は、本年産米どのようになるのか。

答 昨年大幅な単価改定をしたので、今年産米から出荷量及び連続出荷年数に応じた特別加算金を配当していく考えである。これにより平均清算見込み額は、1袋あたり9千600円となる。

J Aが今年産から買い取り制度を導入し、県内最高の30キロ1袋当たり7千600円としたことで、集荷量の増を期待している。

たたらにまつわるコメ、和牛

日本・世界農業遺産目指す 産品ブランド力強化

奥出雲町



「農業遺産を目指す」山陰中央新報の記事